



# 但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2013. 5 第33号

但馬国府・国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808  
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



但馬国分寺跡とその周辺の遺跡 2013年3月撮影

## 第29回企画展

# 但馬国分寺跡 発掘調査40年

国分寺とは、奈良時代の天平13年(741)、聖武天皇の勅命によって全国60あまりの国々に建立された寺院です。

但馬国分寺跡は、昭和48年(1973)の発掘調査開始以来、30回以上わたる発掘調査を重ね、多くの成果を得ています。伽藍配置はもちろん、寺院経営や運営組織の実態も明らかになりつつあり、全国の国分寺研究

を進める上でも大きな注目を集めています。

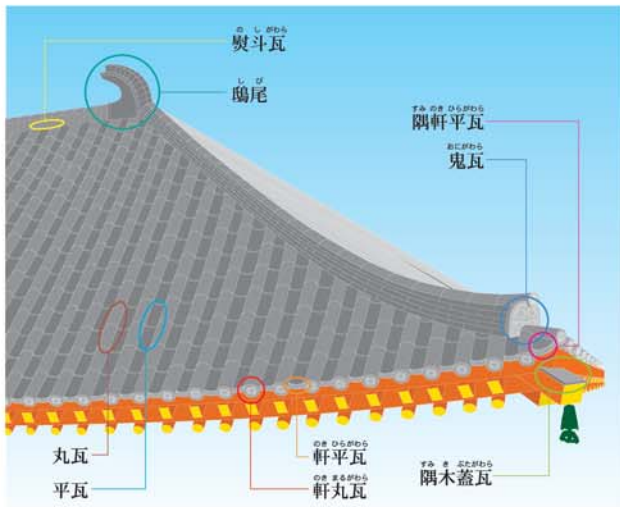
今回の展覧会では、40年間の発掘調査で出土した資料を中心に、現在までの調査・研究の成果をご紹介します。この機会に、聖武天皇によって「国華」と呼ばれ栄華を極めた但馬国分寺の姿をご覧ください。

■会期 平成25年(2013)5月9日(木)～8月27日(火)

## ● 瓦

但馬国分寺跡の発掘調査で最も多く出土する遺物は、瓦。但馬国分寺の屋根に葺かれていた瓦は、10万枚を超えると考えられます。出土した瓦は、文様や製作技法の特徴から、製作年代をはじめ、技術が導入された歴史的背景も理解できる場合があります。但馬国分寺の瓦は、平城宮で使われていたものに似ているため、都の技術・技法を参考に作られたと考えられます。

「瓦礫」という言葉があるように、瓦は重くてかさばるため粗雑な扱いを受けがちですが、古代寺院の調査・研究では欠かすことのできない貴重な資料なのです。



古代の瓦の名称



軒丸瓦Ⅰ型式



軒丸瓦Ⅱ型式



軒平瓦



丸瓦



平瓦



鬼瓦（眼部分）



鬼瓦（鼻部分）



隅木蓋瓦

## ● 木簡

但馬国分寺跡では、昭和52年（1977）、全国の国分寺跡ではじめて木簡が出土し、現在までの出土数は45点に及びます。

木簡には、「<sup>ひしおでん</sup>齋殿」「倉」「院」などの施設名や、「米」「赤豆」「荒炭」「糟」などの物品名が記されていました。その内容から、但馬国分寺には、塔や金堂といった中心伽藍以外にもさまざまな施設があったことが分かります。また、「<sup>てんびょうしんご</sup>天平神護三年」（767）や「<sup>じんごけいうん</sup>神護景雲二年」（768）などの年号が記されたものもあり、国分寺の造営過程や施設の運営を知るための貴重な資料として、全国的にも注目を集めています。



木簡の出土状況（第5次調査）



鑄所解 申請荒炭事 合十籠 ■ 鑄所料 景雲二年四月廿五日物部入鹿

「鑄所」が、物品を管理する部署に「炭を10籠」請求した木簡



■ 鑄所 淨人乙女 川人小山  
■ 舎仕丁 国万呂 金見大國 院内大物子万呂 岩人

「鑄所」や「院内」など、国分寺内の各施設における人員の割り当てを記した木簡



■ 高向部 綿万呂 西倉東方部 文月雀部 乙江  
■ 刑部 小川 北倉赤染部 得麻呂 三網炊屋 日下部 大万呂  
物部 乙日 鑄所 東方部 公誓倉  
大生部 弓手 官坐 私部 宇麻呂

「西倉」や「三網炊屋」、「鑄所」など、国分寺内の各施設における人員の割り当てを記した木簡



供料六斗 合一石三斗八升五合  
雜料七斗八升五合

供料(お供え物)などの支給記録。廃棄前に「飛」などの字を練習している



二方郡温泉郷五戸私部庭足四斗六升

現在の美方郡新温泉町から米を進上した荷札



造寺料 収納帳

「造寺」の際の収入などを記録した文書

## 土器類

但馬国分寺跡からは、須恵器(灰色の焼物)や土師器(赤い焼物)など当時一般的だった製品をはじめ、舶来品の高級陶器まで、さまざまな土器・陶磁器が見つかっています。また、文字が書かれた墨書土器も多く出土しています。



緑釉緑彩 耳皿



緑釉陶器 段皿



僧寺



寺



三網



大院



(落書き)

墨書土器 (土器に墨で文字などを書いています。地名や人名などが記されています。)

いもの どころ  
**鑄 所**

但馬国分寺では、鑄所と呼ばれる施設でさまざまな金属製品を作っていました。

発掘調査では、坩堝（金属を溶かす道具）やふいごの羽口（風を送る設備に取り付けた送風口）、鑄型といった冶金の道具をはじめ、風鐸などの銅製品も出土しています。



整然と並んだ炉跡群



坩堝の出土状況



冶金の道具



風鐸



鑄型



砥石



溶けて固まった銅



大形の風鐸



鉄釘



相輪の破片

企画展関連講座

■館長講座「但馬国分寺跡 発掘調査 40 年の歩み」

日時：平成 25 年 6 月 29 日（土）午後 1 時 30 分～

講師：加賀見省一（当館館長）

場所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

■学芸員講座「但馬国分寺の施設と機能」

日時：平成 25 年 7 月 6 日（土）午後 1 時 30 分～

講師：前岡孝彰（当館学芸員）

会場：但馬国府・国分寺館 映像ホール

\*いずれも、聴講には入館料が必要です。

予約は不要ですので、直接会場へお越しください。

\*学芸員講座の後には、企画展の展示解説をおこないます。

但馬国府・国分寺館  
 ご利用案内



■開館時間 午前 9 時～午後 5 時  
 （入館は午後 4 時 30 分まで）

■休館日 毎週水曜日  
 （祝日は開館し、翌日休館）  
 12 月 28 日～1 月 4 日

■入館料 大 人 500 (400) 円  
 高 校 生 200 (150) 円  
 小中学生 150 (100) 円  
 \* ( ) は 20 名様以上  
 \* 県内小中学生は無料  
 \* 65 歳以上の方は半額

■最新情報はホームページもご覧下さい。  
<http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



国分寺館キャラクター  
 たじまる・くにひめ